

製品名: WRN (リン酸化 Ser1141) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05634**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	162kDa

抗原情報

遺伝子名	WRN
別名	WRN; RECQ3; RECQL2; Werner syndrome ATP-dependent helicase; DNA helicase; RecQ-like type 3; RecQ3; Exonuclease WRN; RecQ protein-like 2
遺伝子 ID	7486.0
SwissProt ID	Q14191
免疫原	抗血清は、Ser1141 のリン酸化部位周辺のヒトウェルナー症候群ヘリカーゼ由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1107-1156

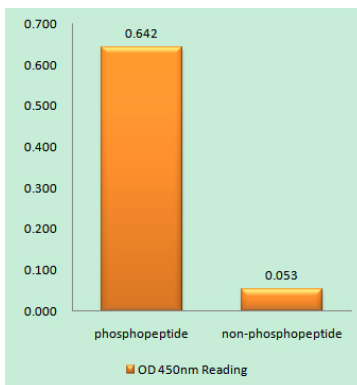
背景

ウェルナー症候群 RecQ 様ヘリカーゼ(WRN) Homo sapiens この遺伝子は、DNA および RNA ヘリカーゼの RecQ サブファミリーおよび DEAH(Asp-Glu-Ala-His)サブファミリーのメンバーをコードしています。DNA ヘリカーゼは、転写、複製、組み換え、修復など、DNA 代謝の多くの側面に関与しています。このタンパク質は C 末端に核局在シグナルを含み、主に核小体に局在します。固有の 3'から 5' DNA ヘリカーゼ活性を持ち、3'から 5'エキソヌクレアーゼでもあります。DNA 末端プロセッシングにおけるこのタンパク質と Ku70/80 ヘテロダイマーとの相互作用に基づくと、このタンパク質は二本鎖 DNA 切断の修復に関与している可能性があります。この遺伝子の欠陥は、早期老化を特徴とする常染色体劣性疾患であるウェルナー症候群の原因です。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],疾患: WRN の欠陥はウェルナー症候群 (WRN) [MIM:277700]の原因です。WRN は、動脈硬化、癌、インスリン非依存型糖尿病、眼白内障、骨粗鬆症など、複数の加齢関連疾患が早期に発症するまれな常染色体劣性早老症候群です。死亡年齢の中央値は 47 歳で、主な原因は心筋梗塞です。現在知られている WS 変異はすべて、未熟に終結するタンパク質を生成します。 ,疾患: WRN の欠陥は、結腸直腸癌[MIM:114500]の原因となる可能性があります。 ,機能: DNA 複製の焦点中心の形成に必須であり、RP-A の結合部位を生成する焦点要素と安定して会合します。マグネシウム依存性 ATP 依存性 DNA ヘリカーゼ活性を示す。ゲノム安定性の制御に関与している可能性がある。 ,オンライン情報: WRN 変異 db (ワーナー病) ,PTM: PRKDC によってリン酸化される。DNA 損傷 (おそらく ATM または ATR による) 時にリン酸化される。 ,類似性: ヘリカーゼファミリーに属する。RecQ サブファミリー。 ,類似性: 3'-5'エキソヌクレアーゼドメインを 1 つ含む。 ,類似性: ヘリカーゼ ATP 結合ドメインを 1 つ含む。 ,類似性: ヘリカーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。 ,類似性: HRDC ドメインを 1 つ含む。 ,サブユニット: N 末端ドメインを介して WRNIP1 と相互作用する (類似性による) 。EXO1 と相互作用する。 ,

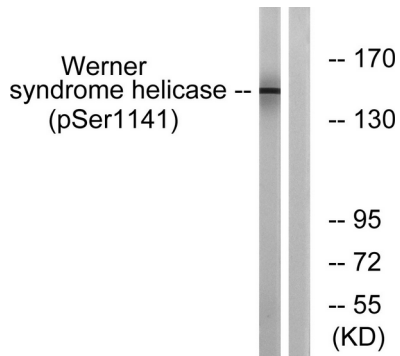
研究分野

タンパク質アセチル化

画像データ



ウェルナー症候群ヘリカーゼ (リン酸化 Ser1141) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



エトポシド 25 μ M を 24 時間処理した K562 細胞のライセートを、ウェルナー症候群ヘリカーゼ (リン酸化 Ser1141) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。